

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人土佐厚生会

— 目 次 —

土佐厚生会.....	2
障害者支援施設こくふ.....	9
相談支援センターアルペジオ.....	10
就労継続支援B型事業所ウィール社.....	11
就労継続支援B型ワークセンターファースト.....	15
障害者福祉ホームコーポラスこくふ.....	19
障害者支援施設ステージ桜が丘.....	21
特別養護老人ホーム八流荘.....	25
ホームヘルプステーションやながれ.....	28
在宅介護支援センターやながれ.....	29
小規模多機能型居宅介護事業所南風.....	30
障害者支援施設とさ.....	31
就労継続支援B型事業所カトレア.....	35

社会福祉法人土佐厚生会

1 事業の総括

社会福祉法人土佐厚生会は、「福祉社会」の実現をめざして、今日まで多様な福祉実践を積み重ねてきた。平成 20 年度には、高知県から中山間事業に対する積極的な参入依頼を受け、平成 21 年 7 月 13 日、長岡郡大豊町津家において、障害者就労継続支援 B 型事業所「ワークセンター・ファースト」の設置経営がスタートした。

限界集落とも言われる中山間地域は、利用者様の希望が多種多様であると共に、他の市町村と比べ希望者が少ないため、障がい者や高齢者等に対するサービスの提供事業が成り立たず、事業者として手を挙げる法人が皆無であった。本会は、身近な地域で必要なサービスを受けられないまま、近隣都市部の施設を利用すべく転出を余儀なくされている方々の存在を知り、たとえ希望者が少数であったとしても、地域貢献を果たすべく、中山間地域の様々な利用者ニーズに対応できる事業展開が必要と考え、各自治体との協議を重ね、赤字を覚悟で中山間地域における事業参入を決断した。平成 30 年 9 月には、旧大豊町役場(大豊町高須)に隣接する農工センターに事業所移転が完了し、作業種目は、衛生用品の袋詰めや嶺北地区の業者からの下請け作業や公共トイレの清掃作業等が主な作業となっている。現在では事業所の売上アップを図り月平均工賃は、18,185 円(令和 5 年度実績)までに向上し、利用者様のやりがいに反映させることで利用者の確保を促進している。

事業所開設当初の大豊町の総人口は、5,100 人を超えていたが、令和 6 年 1 月 31 日現在では、3,078 人(前年の同月比較で 123 人の減少)内訳としては、男性が 1,434 人(56 人の減少)・女性が 1,644 人(67 人の減少)・15 歳未満の年少者が 175 人(8 人の減少)人口全体に占める年少者の割合は、5.69%・65 歳以上の老年者が、1,849 人(57 人の減少)人口全体に占める老年者の割合は、60.07%・世帯数は 1,865 世帯(58 世帯の減少)となっている。山間部の人口縮小が進むなか、今後も引き続き嶺北地域の利用者の方々に社会経済活動に携わっていただき、クリエイション豊かな事業所運営を継続する。

さて、次なる地域貢献は既に安芸市へと舞台を移している。本会が昭和 56 年 4 月から安芸市赤野甲にて設置経営をしている、特別養護老人ホーム八流荘は老朽化が著しく、今後想定される発災時等において被害が懸念される。高齢者の安全・安心・安楽と、地域住民の避難施設としての役割を適切に果たすべく、現施設の西側に新たに特別養護老人ホーム八流荘を改築整備する計画を進めているが、計画策定から既に 2 年間に亘り頓挫を余儀なくされている。

県東部の人手不足が深刻化するなか、依然として待機者(多床室希望者)が多く、本会に対する福祉ニーズも多様化かつ複雑化している。2023 年 12 月 22 日に、厚労省の国立社会保障・人口問題研究所より『日本の地域別将来推計人口(令和 5(2023)年推計)』が公表され、安芸市の人口推移状況は、2020 年(16,243 人)、2035 年(12,081 人)、2050 年(8,409 人)と予測されている。昨今の人口縮小社会の現状と課題においても、地域の自立的・持続的発展を見据えながら、よりよいサービス提供のための環境整備に努めることは勿論のこと、利用者の特性と地域の要望に応じた柔軟な福祉施策(関係条例の改正等)が必要急務であると考え。社会福祉法第 4 条(地域福祉の推進)には、「地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。」と明記されている。本会は、社会福祉を目的とする事業主体として、地域社会の脆弱化を防ぐべく、人口減少局面における社会経済状況の変化を見据え、長期的展望に立った持続可能な事業改善を常に進めなくてはならない。また、地域課題の克服に向けては、地域、企業、行政等における協働のあり方が極めて重要となる。本会が主体となり、地域が必要とする福祉活動を継続的に推進すべく、必要な要望を関係自治体に申立てても、その自治体からの協力がなければ、「地域福祉の推進」に向けた活動は停滞し、最終的には絵に描

いた餅となってしまふ。「全社協 福祉ビジョン 2020」の目標として掲げられた『ともに生きる豊かな地域社会の実現』において、関係自治体及び地域の社会福祉協議会、民生委員、児童委員、社会福祉法人、医療・福祉施設をはじめ、地域住民との連携・協働が一層重要となってくる。

本会の中長期計画においては、法人本部の組織再編を鑑み、特別養護老人ホーム八流荘の改築整備と併せて、法人本部事務局の拠点機能の全てを、現在の南国市左右山から、地域の脆弱化が早いと予想される安芸市赤野甲に移転させ、社会福祉法人としての究極の役割と責任を果たすべく、安芸市の活性化に向けたまちづくりに積極的に寄与することを最大の目的とする。本会及び地元自治体である安芸市からも既に要望がなされている「4人部屋多床室」の設置に係る高知県との協議においては、依然として進展が望めないことから、本件の現況打開を求めるべく更に踏み込んだ具体的活動を実践する。

2 事業報告

(1) 役員、評議員等の活動

ア 役員等の活動は以下のとおり。

活動名	開催日・場所	主たる審議内容
理事会	令和5年6月10日 (土佐厚生会藤の間)	令和4年度事業報告・決算、定款の変更、業務執行理事の選任、評議員候補者の推薦及び評議員選任・解任委員会の開催、理事・監事候補者、評議員会開催
	令和5年6月25日 (土佐厚生会藤の間)	理事長及び業務執行理事の選任
	令和5年9月9日 (土佐厚生会藤の間)	事業進捗状況、諸規程の一部変更
	令和5年12月2日 (藤の間・オンライン併用)	事業進捗状況、補正予算、事業の休止、諸規定の変更、評議員会開催
	令和6年3月9日 (藤の間・オンライン併用)	令和6年度事業計画・予算、補正予算、諸規定の変更、評議員会の開催
評議員会	令和5年6月25日 (土佐厚生会藤の間)	令和4年度事業報告・決算、定款の変更、理事・監事の選任
	令和5年12月16日 (土佐厚生会藤の間)	事業進捗状況、補正予算、事業の休止
	令和6年3月23日 (土佐厚生会藤の間)	令和6年度事業計画・予算、補正予算
監事	令和5年5月20日 ～5月23日	書面監査
	令和5年5月19日 (法人本部)	法人事業、会計経理についての監査

イ 各種会の活動は以下のとおり

名称	開催日・場所	主たる審議内容
褒章・懲戒委員会	令和6年3月9日 (藤の間・オンライン併用)	各種団体の令和6年度表彰者の推薦選考、本会永年勤続表彰者の選考
業務執行理事会	毎月1回 (法人本部)	法人内連絡調整、重要案件の調査・審議

(2) 施設機能の強化への取り組み

ア 指導監督の推進

- (ア) 会是に沿った支援ができるよう経営理念の徹底
経営理念の徹底は、接遇の向上のため、施設長自らが講師となり、自施設のスタッフに接遇研修が実施できるよう、施設長勉強会でその方法を学んだ。会是マニュアルに沿った支援は、令和4年度版のマニュアルを見直し、特に修正がなかったため、現行版のマニュアルに沿った支援を実施することとした。
- (イ) 法人の中期計画書及び短期計画書の精査
中期事業計画書の策定は、計画に沿って11月施設長勉強会にて作成手順等を説明、12月末に提出された。その後2回のヒヤリングと修正を経て、3月の理事会、評議員会で承認を受け、令和6年度事業はそれに沿って進めていくこととした。
- (ウ) 各施設の事業の進捗状況等の報告を受け、その状況を把握し指導・監督
短期計画に掲げた、事業計画の進捗状況、各種データの提出についてはそれぞれ提出された。また、人事考課結果は予定通り提出され、スタッフの課題と指導方法の報告については、人事考課実施前の法人内研修や人事考課後の調整会議をとおして実施した。
- (エ) 施設長の育成強化の継続
毎月1回施設長勉強会を実施、力量アップに努めた。内容としては、虐待防止委員会のPDCAサイクルのディスカッション、事業計画作成と部署活動、委員会活動のチェックを中心に進めた。令和6年度からは日本福祉施設士会が実施する施設長実学講座を受講することで、施設長の使命、役割を自覚し、事業計画の効果的な運用を目指すこととした。
- (オ) 業務執行理事の育成強化の継続
毎月定期的に業務執行理事会を開催し、不適切支援アンケート並びに事故報告について各施設の取り組みや進捗状況の報告などを基に対策等を協議した。また、人材不足の対策として、外国人雇用に関する取り組み、職員紹介制度、中途採用者の取り扱い、介護報酬改定に伴う賃金制度の見直し、キャリアパスの変更、資格取得支援制度の運用方法などについて協議、決定をした。また、毎月提出されるゾーン連絡会の会議録により、業務執行理事会での決定事項の伝達ができていることやゾーン連絡会での施設、事業所の報告事項並びに決定事項について、法人本部で確認をした。

(3) 利用者サービスの向上に取り組む

ア スタッフの育成の強化

- (ア) 研修受講者の気づきや知識を部署内で共有、実践できるシステムづくり
効果的な研修のシステム作りのため、まずは研修委員会のメンバーを決定した。メンバーは業務執行理事で構成しており、研修の企画そのものではなく、研修内容をより効果的に反映させるための活動を行う立場として位置づけた。施設として、上司としてスタッフとどう関わるべきか、その後のアウトプットの方法も検討したが、結論が出ず、効果的な研修システムづくりのため外部機関へ相談し、次年度具体化することとした。
- (イ) 部署長としての役割理解とリーダー育成の強化
キャリアパス表を用いて各施設長から職種毎の役割等を説明した。リーダー育成のため、主任以上の研修を実施することとし、カリキュラム、講師の選定については、令和6年度に外部機関と調整をする。

a 階層別研修

(a) 組織性 [主催：高知県福祉人材センター・介護労働安定センター]

研修名	受講者・研修内容
先輩職員研修	<p>受講者:勤続2年～3年のスタッフ1名</p> <p>先輩としての働き方、後輩への関わり方の基本姿勢について学んだ。受講者は、後輩サポートや利用者支援の場面で、言葉の使い方や相手の表情を読み取ることを実践したいと目標に掲げた。</p>
中堅職員研修	<p>受講者:勤続3年～5年のスタッフ3名</p> <p>中堅職員としてのキャリアデザイン、キャリアアップ、役割と行動について学んだ。何のためにするのか目的や意味を理解することが自身の成長や後輩育成に繋がること、利用者支援に当たっては、利用者を取り巻く環境や関係機関などが関係していることから、色々な視点から物事を見ることが利用者の生活の質の向上に繋がることを理解した。そして、中堅職員として、自ら考え行動するだけでなく、周囲を巻き込んでいく立場であることを実感できた。</p>
中堅職員 ステップアップ研修	<p>受講者:勤続5年以上のスタッフ6名</p> <p>求められる役割と後輩の指導、育成の基本・手法について学んだ。個人ワークやグループワークを通じて自らを振り返り、後輩に対する伝え方、聴き方の重要性を学んだ。また、「3人のレンガ職人」の寓話から、同じ作業でも何を目的とするかによって自らの考え方や行動が変わっていくこと、後輩に対しても作業の意味を理解できるよう指導することがより良いサービスの提供に欠かせないことを知ることができた。</p>
チーム力強化と中堅・ベテラン従業員の役割	<p>受講者:リーダー層等のスタッフ1名</p> <p>アサーティブコミュニケーションの手法について学ぶ。異なる部署同士や上司や部下、同僚などがお互いに尊重しあい、円満な人間関係を築くことが質の高い支援に繋がることを知り、現状とのギャップが見えた。受講者は、学んだ意思疎通のスキルを活かして同僚と関わりたいと目標に掲げた。</p>
業務効率向上のためのタイムマネジメント研修	<p>受講者:リーダー層等のスタッフ1名</p> <p>業務効率化のための行動の管理、優先順位付け、目標設定、振り返りについて学んだ。日々の業務を緊急度・重要度に応じて振り分け、優先順位付けや他者に振れる業務があることを把握できた。そして、目標設定や振り返りのポイントの考え方について理解した。</p>
チームリーダー研修	<p>受講者:リーダー層等のスタッフ3名</p> <p>リーダー層の役割と自らのキャリアの方向性について学んだ。リーダーが自らの役割を遂行するには後輩の育成が必要不可欠であること、自分に何ができるのか、やりたいことは何か、どのような関係性を築いていきたいかを考え、そのために今何をしなければならないかを再認識する時間となった。「スタッフが動きやすくなるには」、「長く働いてもらえる職場にするには」、「選ばれる施設になるには」について常に意識を向けて業務に当たりたいと決意した。</p>
ケアリーダー研修	<p>受講者:リーダー層等のスタッフ2名</p>

	現場の課題を解決するために、スタッフ・利用者双方へのアセスメントの視点とコミュニケーションについて学んだ。目の前の出来事を起きた原因や背景を含めて理解することが必要であることを知った。そして、この研修で学んだことを活かして、より良い職場するために貢献したいと考えることができた。
スーパービジョン理論に基づく部下指導研修	受講者:リーダー層等のスタッフ2名 部下・後輩に対して援助的・支持的に関わる視点を学んだ。自身の育成・指導で不足する点を理解し、グループワークや演習を通じて、まずは部下との信頼関係が重要であること、そのためには、日頃から声掛けするなどのコミュニケーションを図ること、部下の話を傾聴し部下の課題を一緒に考える必要があることを理解した。
管理職員研修	受講者:6等級～7等級の役職者1名 管理職の役割と考え方を理解・再認識した。グループワークを通じて、他法人の管理職の考え方、意見が異なる際の合意形成、課題の特定や組織の動かし方を学び、自身の不足点を理解した。

b リーダー層の研修

研修概要	対象者・研修内容
人事考課者研修	受講者:4等級以上・役職者 実施月:10月・3月
	施設やチームといった組織が円滑に仕事をこなせるよう様々なマネジメントを行う役職者の役割と人事考課との繋がりについて、令和4年度から引き続いて学んだ。具体的には、タイムマネジメントで自らの仕事を効率化する考え方を学び、部下に任せられる仕事があることに気がついた役職者が多かった。そのほか、育成に視点を定めた人事考課、役職者の本来の役割を遂行するためにキャリアパスから自らの役割について考える機会となった。

イ 良質のサービスの推進

(ア) 事故防止に対する意識の徹底と事故防止委員会の指導強化

事故防止委員会活動の指導強化については、毎月開催している業務執行理事会で各施設、事業所から本部へ提出された事故報告書を基に、状況確認と事故の背景について検討、対策などの検証を行い、その結果を施設に伝え、再発防止に取り組んだ。

(イ) 虐待に対する意識の徹底と虐待防止委員会による虐待予防

令和4年度より毎月継続して各施設、事業所で、155項目の不適切支援について、スタッフに対するアンケートを実施、各施設或いはゾーンの虐待防止委員会で集計、改善に向けて対策を検討し取り組んだ。当初は虐待に対する認識が不十分であったが、アンケートを重ねるごとに虐待についての意識、虐待防止委員会が中心となり虐待を予防していくことなどが徹底され、その成果が表れ各施設、事業所共に不適切支援は改善されてきた。今回の155項目の不適切支援アンケートは3月で終了し、令和6年度からは各施設、事業所で新たなアンケート内容を検討し実施計画をたて、虐待防止・身体拘束廃止委員会計画書に沿って取り組み、今後も継続して各施設或いはゾーンの虐待防止委員会の強化に努めていく。

(4) スタッフの確保

ア 人材マネジメントシステムの構築

(ア) 人手不足を解消するため職員採用計画の作成

職員採用計画を基に、スタッフ確保に向けて取り組んだ。他法人ではすでに取り組んでいる、特定技能外国人の受け入れについて協議、令和6年度に八流荘とステージ桜が丘で受け入れることを決定し、入交イノベーションズ(株)を通じて、フジアカデミーバリから候補者9名の紹介を受けた。オンライン面接実施後それぞれの施設で2名ずつ、4名を受け入れることとした。その他にも就職フェア、就職面談会や求人事業所説明会等のイベントなどに多数参加し1名採用できた。

SNSの活用による広報活動について、令和6年度開始に向けて検討しており、効果的に運用するために外部機関へアドバイスを要請することとした。

イ 職員満足度の向上・帰属意識の醸成

(ア) 意識調査の実施と課題についての対策

意識調査実施について、令和4年度は法定のストレスチェックで代替したが、令和5年度は本会に即したアンケートを実施した。アンケート項目は労働条件、労働環境、人間関係、福利厚生、研修体制、キャリアパスの6項目について、それぞれ3～5個の小項目を設定し満足度を三択で調査し、記述欄も設けた。6項目いずれも総合評価で普通との回答が多数を占めたが、労働条件と研修体制について不満足が満足を上回った。労働環境、人間関係、福利厚生については、満足がわずかではあるが不満足を上回っていた。意見については、可能な限り対応していくこととした。

(イ) キャリアパスの徹底

前期人事考課に合わせて育成面談を行っており、その都度スタッフとして求められる行動やスキルについての説明はできている。しかし昇任、昇格について詳細に説明ができていない。令和5年度に見直した昇格要件の内容などを周知していく。

(5) 経営基盤の強化

ア 事業所の経営改善

(ア) 就労事業収支差額の改善

就労支援事業の収益改善を図るために、令和5年度は主たる事業であるウィール社の印刷とカトレアの乾燥工場を含む野菜加工部門について、予算管理と分析を行った。毎月の実績から、売上に対する原材料費、収支差額、工賃額等の比率や予算の進捗率を管理した。ウィール社では通常の印刷業務に加え、UVプリンタを使用した商品の販売があり印刷収益は上がったが、外注委託費の比率も上がり、就労事業支出は増加したが、予算の範囲の収益は上げることができた。カトレアでは、昨年受注がなかった生姜の加工事業が復活し収益を上げることができた。それにより利用者に6月と12月の賞与及び3月の期末手当を支給することができた。その結果平均工賃をウィール社が4,491円、カトレアが3,844円上げることができた。また、就労事業の継続のため、将来の経費を補填するための積立金も確保することができた。

(イ) 障害者支援施設利用者確保

3施設合算の年間平均稼働率を令和4年度と対比すると、生活介護サービスで0.2%、入所支援サービスは1.3%、短期入所サービス0.7%と小数ではあるが増加している。施設単位で比較すると、すべてのサービスが増加している施設がある反面、生活介護、入所支援が低迷している施設、短期入所のみが低迷している施設があるが、いずれの施設においても、頻繁に関係機関等を訪問し利用者確保に努めている。そのためか年

間平均稼働率が前年度より低かった施設でも1月から3月を比較すると増加傾向にある。

(ウ) 必要経費の見直し

紙オムツなど多額の経費を要する価格を調査した。7月までは変動はなかったが、8月頃から若干の変動が出てきた。値上がりを見据えて一部施設では良質で価格の低いオムツに変更する等、見直しを実施した。

委託業者の見直しについては、やながれゾーンで給食委託費を交渉し月額6.9%の削減をした。また、従来の特種建築物の検査委託業者と価格交渉したことや、試験的にやながれゾーンの委託業者を変更したことにより、前回より27%程度の削減ができた。その他法人で業者統一する品目については、その根拠や効果をまとめることができず令和6年度持越しとした。

イ 施設整備事業の実施

(ア) 八流荘建て替え

土地の取得に伴う租税特別措置法の適用確認と農地転用許可並びに所有権移転の許可が下りたため、地権者から土地の譲渡を受けた。また、旧障害者支援施設あきの跡地を八流荘建設用地の一部に計画しており、その建物の解体に向けて、建物内に残っている不要物などを撤去した。さらに現在旧障害者支援施設あきの一階部分にある事務室を八流荘の本館一階に移転するため、放送設備、防火設備等の盛り替え準備を行った。そのほかについては、高知県の条例の関係で進んでいない。施設基準について、高知県から令和6年1月に、知事が必要があると認める場合4人部屋を認める条例案が示され、さらに補助対象は従来型の2人部屋までを認める方針を示されたが、その後条例変更、補助対象の変更もしないとの連絡があり、令和5年度は進展がなかった。

障害者支援施設こくふ 事業報告

1 事業の総括

会是である愛情・奉仕・連帯を念頭にに基づき、利用者様の人権の尊重、自己決定、自己選択及び自立に向けた支援を行い、利用者様が安心安全な生活と社会参加ができる支援に努めました。また、利用者様・スタッフ・経営満足をバランスよく向上させることで、運営の安定化を目指し『経営安定の基礎を作る』ことを図りましたが、経営安定には至りませんでした。

2 事業報告

事業計画(1) 修繕費用の確保 目標：経常増減収支差額率 10%以上

ア 稼働率の向上 目標：年間稼働率 90%以上

イ 財務指標項目の適正化 目標：人件費率 62.9%・事業費率 16%・事務費率 11%

年間稼働率は、施設入所支援 86.4%・生活介護 85.2%。財務指標項目は、人件費率 65.3%・事業費率 17.6%・事務費率 11.7%。修繕費用の確保の目標である経常増減収支差額率は 2.6%と目標を達成できませんでした。年間で新規入所 9 名、退所 10 名と退所が多いことと入院・外泊・外出にて約 4%稼働率を下げているのが原因です。

事業計画(2) 支援力向上 目標：アンケートの不適切支援回答 7 項目以下

ア 虐待防止委員会の効果的な運用

イ 部署計画に基づく各部署の運用

虐待防止委員会の機能を再認識し、委員会を中心に啓蒙活動と毎月の不適切支援アンケートによる実践を行い、部署計画に基づいた PDCA サイクルの運用により、155 項目の不適切支援アンケートで不適切支援を行ったとの回答は『トイレの臭いがする』などの 2 項目となりました。

事業計画(3) 環境整備

ア SDGs に沿った設備導入 目標：空調改修・LED 化・外皮改修・太陽光発電導入

イ ICT 化推進 目標：ICT 機器の充実

ウ ノーリフト機器充実 目標：ストレスチェックの自覚的身体的負担度を 10%減少

大規模改修では費用対効果が低いため、空調は故障リスクの高い箇所を改修しました。ICT 化推進は AP を増設してスタッフ用ネットワークのアクセス範囲を広げると同時に利用者様のインターネット接続可能範囲を広げました。ノーリフト機器はベッドとリフターを追加導入しましたが、目標であるストレスチェックの自覚的身体的負担度は 3%減少に留まりました。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況 (単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設入所	87.0	85.6	85.5	83.9	84.4	84.0	85.8	86.4	87.0	87.9	90.2	89.0	86.4
生活介護	85.7	84.6	84.0	82.9	83.0	83.4	85.2	84.8	85.7	86.7	89.0	87.6	85.2
短期入所	1.7	3.2	3.3	14.5	7.3	36.7	20.2	9.2	10.5	15.3	13.8	28.2	13.7

相談支援センター アルペジオ 事業報告

1 事業の総括

本会の会是である「愛情」「奉仕」「連帯」の精神と相談支援専門員としての自覚を持ち、利用者様の意思及び人格を尊重し、常に利用者様の立場に立った適切な支援の提供のため、利用者様やご家族との信頼関係構築に努め、行政や医療機関、施設等関連機関との連携強化を行い、相談支援援助者としての対応を行いました。

2 事業報告

事業計画(1) 資質向上

- ア ソーシャルワークの実践
- イ 社会資源の活用と連携
- ウ 利用者様の状態把握

利用者様やご家族から状況を伺い、関係機関と連携をとりながら利用計画書を93件作成、モニタリングを194件作成しました。令和4年度より相談支援専門員1名減少のなか、サービスを低下することなく支援できました。

事業計画(2) 継続判断

- ア 継続判断

前年度より赤字は533,478円減少しましたが赤字解消に至りませんでした。令和6年度報酬改定でも赤字は解消できない報酬体系です。そのため、次年度も大幅な収入の増加は見込めませんが、相談支援専門員の時間外労働を減少することで支出削減に努めたいと思います。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働 (単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
計画更新	7	9	12	19	8	3	8	4	6	6	4	7	93
モニタリング	12	13	3	14	25	8	14	15	5	30	39	16	194
合計	19	22	15	33	33	11	22	19	11	36	43	23	287

就労継続支援B型事業所ウィール社 事業報告

1 事業の総括

「利用者満足度の向上を図れるよう環境の整備」と「経営の安定化」を図ることを目標とし、スタッフ一人一人が自発的に考え行動できるよう体制づくりを構築し活動してきました。UVプリンタ事業が軌道に乗り始め、作業体制の多様化、内容の充実を図ることができ、働く場と日中の居場所としての役割を果たすことができました。

2 事業報告

事業計画(1) 利用者様のニーズや想いを汲み取り、利用者様に寄り添った支援を実践します。 ア スタッフの資質及び知識の向上を図ります。 (ア) 法人内外の研修に積極的に参加し、資格や知識を得て、福祉専門職としてサービスの向上に努めます。 (イ) スタッフが事業所内での役割を担い、スムーズな施設運営ができるよう体制づくりを行います。 イ 作業や生活上の環境整備を進め、日中の活動の充実を図ります。 (ア) 安心安全に作業ができるよう、自助具やマニュアルの整備、作業の分業化や機器の充実を図ります。 (イ) 日常生活上の困りごとや課題にも支援し、生活環境の充実を図ります。

ア スタッフが資質の向上を図るため、法人内外の研修に積極的に参加し、2名が資格（サービス管理責任者、セルフ士）を取得しました。研修の受講状況は下記のとおりです。

スタッフの研修参加状況

研修・セミナーの名称	開催月	主催者	参加者
福祉QC講座【オンライン】	6月	日本福祉施設士会	所長、サビ管他
令和5年度福祉苦情解決セミナー	9月	高知県社協	サビ管
高知県工賃向上推進セミナー	8月、1月	高知県	所長、生活支援員
福祉施設士セミナー	9月	日本福祉施設士会	所長
令和5年度全国社会就労センター総合研究大会大分大会	9月	全国社会就労センター協議会	所長
近畿ブロック福祉施設士セミナー(オンライン)	10月	近畿ブロック福祉施設士会	所長
第37回中四ブロック福祉施設士セミナー 高知・徳島大会	10月	中四ブロック福祉施設士会 高知県福祉施設士会	所長、サビ管 生活支援員
県身障協・セルフ合同施設長研修	12月	高知県身体障害者施設協会 高知県社会就労センター協議会	所長
福祉QC全国発表大会	12月	日本福祉施設士会	サビ管他
中四セルフ施設長研修	12月	中四社会就労センター協議会	所長
高知県サービス管理責任者実践研修 (サービス管理責任者資格取得)	12月	高知県	生活支援員
高知県身障協(作業部会) 高知県セルフ協合同職員研修会	1月	高知県身体障害者施設協会 高知県社会就労センター協議会	サビ管、 生活支援員

発達障害就労支援セミナー	1月	高知県療育センター	生活支援員
高知県農福連携フォーラム	2月	高知県	所長
令和5年度中四セルフ協職員研修会 (高知県大会)	2月	中四国社会就労センター協議会	所長、サビ管
令和5年度全国社会就労センター長研修会	2月	全国社会就労センター協議会	所長
令和5年度全国社会就労センター協議会 リーダー養成講座 (セルフ士資格取得)	8月～3月 (6回)	全国社会就労センター協議会	職業指導員
施設長実学講座 決算書を読み解く	7月 12月	日本福祉施設士会	所長
法人サビ管研修	毎月1回	土佐厚生会	サビ管2名

イ 日常生活上の悩みや困りごとにも対応できるよう、個別支援計画モニタリング時に聞き取りを行い、利用者満足度調査を行いました。

利用者満足度調査実施【回答者24名：作業満足度83.5% 生活満足度87.3%】

	評価	回答者	意見
作業満足	満足（やや満足を含む）	20名	・作業にやりがいを感じている。 ・できる作業が増えた。
	普通	4名	・周りが教えてくれる。 ・工賃がもう少し欲しい。
	不満（やや不満を含む）	0名	・周りから色々言われる
生活満足	満足（やや満足を含む）	20名	・家族の協力がある。 ・工賃で好きなものを買える。
	普通	3名	・困りごとは特にない。
	不満（やや不満を含む）	1名	・将来が不安。・家族のことが不安 ・買物が不便

事業計画(2) 経営の安定化を図るため、施設会計、就労会計の黒字化を図ります。

ア 利用契約者27名以上、稼働率110%以上を目標に安定した施設運営を行います。

(ア) 特別支援学校や相談支援事業所と連携し、実習生や見学者を積極的に受け入れ、利用者や待機者の確保に努めます。

(イ) 通院対応や在宅ワークとの併用等、サポート体制を充実し、通所日数の少ない利用者様の通所日の確保等、稼働率の向上を図ります。

イ 各作業部門が、対前年度比110%以上の売上を達成し、就労会計の黒字化を目指します。

(ア) 新規事業のUVプリンタを活用した商品作りをスタッフで行い、売上の向上を図ります。

(イ) 高知県共同受注窓口と連携を図り、墓地清掃作業の準備を図ります。

(ウ) 目標工賃¥23,000を達成できるよう、作業効率や環境整備、ムリ・ムラ・ムダをなくし、利用者様と共に進めていきます。

ア 経営の安定化を図るため、利用契約者27名、稼働率110%以上を目標に運営してまいりましたが、利用者様の確保が進まず、2名の退所が出たため、年間25.1名、稼働率106.3%でした。利用状況は下記のとおりです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
令和5年度	契約者数	26	26	26	26	26	26	25	24	24	24	24	25.1
	開所日数	21	21	22	21	21	21	22	21	20	21	20	21
	延べ人数	466	471	504	472	463	414	410	437	425	445	419	431
	1日平均	22.2	22.4	22.9	22.5	22.0	19.7	18.6	20.8	21.3	21.2	21.0	20.5
	稼働率%	111.0	112.1	114.5	112.4	110.2	98.6	93.2	104.0	106.3	106.0	104.8	102.6
令和4年度	契約者数	28	28	28	28	29	29	28	28	28	28	27	26
	延べ人数	466	416	439	453	468	465	463	479	452	459	457	482
	稼働率%	111.0	104.0	99.8	107.9	111.4	110.7	110.2	114.1	107.6	109.3	114.3	109.6

イ 各作業部門が、対前年度比 110%以上の売上を達成し、就労会計の黒字化を目指し、事業所全体では、対前年度比 119.7%を達成し、就労会計の黒字となりました。平均工賃も¥25,042 となりました。実績は下記のとおりです。

作業名		令和4年度	令和5年度	予算(目標)	対前年度比
印刷部門		¥15,199,872	¥19,214,696	¥16,000,000	126.4%
うち UVプリンタ		—	¥1,774,403	¥1,200,000	
精米部門		¥6,826,862	¥7,019,967	¥6,000,000	102.8%
軽作業部門		¥2,136,485	¥2,069,233	¥2,400,000	96.9%
内訳	南国ミロク	¥977,306	¥949,883	¥960,000	97.2%
	やまくに	¥304,077	¥383,207	¥300,000	126.0%
	ミニパック	¥114,240	¥81,375	¥60,000	71.2%
	大三	¥113,736	¥178,728	¥180,000	157.1%
	浜幸	¥221,767	¥151,100	¥480,000	68.1%
	高生連	¥79,492	¥88,077	¥78,000	110.8%
	その他	¥325,867	¥236,868	¥342,000	72.7%
その他		¥28,200	¥660,000	¥40,000	2340.4%
合計金額		¥24,191,419	¥28,963,896	¥24,040,000	119.7%
平均工賃		¥20,551	¥25,042	¥23,000	121.9%

事業計画(3) 課題解決・業務改善への取り組み

ア 福祉QC活動の推進

(ア) 福祉QC活動を推進します。

(イ) メンバー間でコミュニケーションを取り、それぞれの視点を持ち課題解決に努めます。

ア スタッフで福祉QC活動を実施し、課題解決への取り組みを行いました。テーマは、『利用者様の平均工賃UPを目指して』とし、新規事業のUVプリンタ事業を開設し、販売するまでの一連の流れを発表しました。

3 その他事業報告

(1) 年間行事

行事名	開催日	実施内容
法要(秋、春)	9/20、3/21	国分寺住職による法要を開催
外出(春)	7/14	香川県四国水族館へ利用者様23名、スタッフ6名で訪問。イル

(秋)	11/10	カシヨーや買物を楽しむ。 佐川町道の駅へ利用者様 20 名、スタッフ 6 名で訪問。自作商品 売れ行き状況や特産品の買物を楽しむ。
忘年会	12/22	年末恒例の忘年会を実施。利用者様 21 名、地域から 2 名参加し、 食事、カラオケ、ビンゴ大会を開催。
花見	順延	開花状況、天候不良により 4/2 に令和 5 年度事業で開催
園芸クラブ	随時	コーポ利用者様と共にプランターへ植栽

(2) 日常生活支援

項目	日時	支援内容
体重血圧測定	毎月 1 回	毎月工賃支給日に実施、通院時等に情報提供
訪問販売	毎週水曜日	サンプラザハッピーライナー号が来所、希望者は自身で嗜好物を購入
食事委員会	7/20, 1/31	管理栄養士と給食について意見交換

(3) 防災避難訓練実施状況

訓練等	実施日	内容
火災訓練、消火器訓練	5/31、3/27	消防署への通報訓練及び屋外への避難訓練、終了後 消火器使用訓練
地震・水害訓練	5/25 (水害のみ) 7/12、 10/27、2/29	南海トラフ地震を想定し、発災 3 分後にヘルメット 着用し、屋外へ避難。
図上訓練	7/19、10/27、2/29	避難路確認、発電機操作確認等
夜間通報訓練	11/17	緊急連絡網を使用した通報訓練

(4) スタッフの配置状況

職種	常勤換算	職員数
所長 (管理者)	0.7	1 名 (兼)
サービス管理責任者	1	1.5 名 (兼)
生活支援員 (相談)	0.5	0.5 名 (兼)
職業指導員	3.2	4 名 (兼)
送迎運転手	0.8	2 名
計	6.2	9 名

(5) 施設への苦情等件数

受付先	件数
苦情等の申し出窓口	0
施設運営委員会	0

就労継続支援B型ワークセンターファースト 事業報告

1 事業の総括

スローガンである「個性と可能性を活かすことが成長への第一歩」を実践し、利用者様がいよいよ地域で安心安全に生活できるよう支援を実践しました。利用者様と作業の確保が進み、安定した施設運営を行うことができました。

2 事業報告

事業計画(1) 利用者様のニーズや想いを汲み取り、利用者様に寄り添った支援を実践をします。

ア スタッフの資質及び知識の向上を図ります。

(ア) 福祉QC講座を受講し、事業所の業務改善に努めます。

(イ) スタッフが事業所内での役割を担い、スムーズな施設運営ができるよう体制づくりを行います。

イ 作業や生活上の環境整備を進め、日中の活動の充実を図ります。

(ア) 安心安全に作業ができるよう、自助具やマニュアルの整備、作業の分業化や機器の充実を図ります。

(イ) 日常生活上の困りごとや課題にも支援し、生活環境の充実を図ります。

ア スタッフが積極的に研修を受講し、資質及び知識の向上を図りました。

(ア) 福祉QC活動を実施し、12月の評議員会にて発表をしました。

テーマ 無理なく減らそう～持続可能なダイエット～

(イ) スタッフが役割を担い、施設運営に携わりました。

スタッフの研修参加状況

研修・セミナーの名称	開始時期	主催者	参加者
福祉QC講座	6月	日本福祉施設士会	サビ管
高知県障害者虐待防止・権利擁護研修(中堅職員対象)	8月	高知県社協	職業指導員
高知県工賃向上セミナー	8月	高知県	サビ管
相談支援従事者初任者研修	9月	高知県	生活支援員
高知県身障協(作業部会)	1月	高知県身体障害者施設協会	サビ管
高知県セルフ協合同職員研修会		高知県社会就労センター協議会	生活支援員
中四セルフ協職員研修会(高知大会)	2月	中四国社会就労センター協議会	生活支援員
法人サビ管研修	毎月1回	土佐厚生会	サビ管

行事	実施日	実施内容
いきいき元気運動教室	4/12, 5/10, 6/14 9/13, 1/10, 3/13	大豊町地域包括支援センター主催の高齢者向けトレーニングやストレッチに利用者様と参加
清掃活動	7/7 10/2, 11/17	クリーンアップ大豊(大豊学園生徒会と駅の清掃) たばこ組合様の清掃活動に利用者様と参加
外出行事	5/11 11/10	春の外出・桂浜散策 秋の外出・道の駅さかわ
立川御殿音楽祭	10/14	利用者様9名と音楽鑑賞に参加
クリスマス忘年会	12/25	地域より3名招待し開催

誕生会、還暦の祝い	5/31, 6/29, 7/24 8/30, 10/18, 12/12 2/14, 3/27	利用者様の誕生月に昼食やおやつと一緒に作りお祝いしました。
-----------	--	-------------------------------

イ 作業環境の改善や日常生活への支援を実施しました。

- (ア) 焚き付け剤の包装紙や梱包材の折り畳みの自助具を作成し、作業効率の向上を図りました。
- (イ) 行政や地域相談支援専門員と連携し、日常生活上の支援を実施しました。
 - ・生活保護申請や給付費への対応。
 - ・県議会、衆議院選、知事選の期日前投票に引率
 - ・住宅改装等支援

事業計画(2) 経営の安定化を図るため、施設会計、就労会計の黒字化を図ります。

ア 利用契約者 12 名以上、稼働率 90%以上を目標に安定した施設運営を行います。

- (ア) 地域保健師や相談支援事業所と連携し、実習生や見学者を積極的に受け入れ、利用者様の確保に努めます。
- (イ) 通院の安定しない利用者様に各関係機関と連携し、通所を促す支援を行い、稼働率の向上を図ります。

イ 毎月 20 万円以上の売上を達成し、就労会計の黒字化を目指します。

- (ア) スタッフにて毎月の売上進捗を確認し、目標を達成します。
- (イ) 嶺北地域の事業者と連携し、コラボ商品やイベントの開催等を行い、活気ある施設運営を行います。
- (ウ) 目標工賃¥15,000 を達成できるよう、作業確保や環境整備に努め、利用者様と共に頑張っていきます。

ア 6月、10月に利用者様2名の退所がありましたが、4月、11月に2名の利用者様確保ができ、平均利用者数 12.1 名、稼働率 92.4%を達成することができました。

また、特別支援学校の実習も3名受入れ、今後の利用者様確保に繋げていきたいと思えます。毎月の実績は以下のとおりです。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
令和5年度	契約者数	13	13	13	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12.1
	開所日数	21	21	22	21	21	21	22	21	21	21	20	21	253
5年度	延べ人数	205	204	191	198	193	199	181	186	203	201	183	194	2338
	1日平均	9.8	9.7	8.7	9.4	9.2	9.5	8.2	8.9	9.7	9.6	9.2	9.2	9.2
	稼働率%	97.6	97.1	86.8	94.3	91.9	94.8	82.3	88.6	96.7	95.7	91.5	92.4	92.4
4年度	契約者数	11	11	11	11	11	11	11	12	13	12	12	12	11.5
	延べ人数	177	154	184	159	161	174	176	175	198	194	185	195	2130
	稼働率%	84.3	77.0	83.6	75.7	87.0	92.9	93.6	93.3	99.1	89.6	79.5	85.5	91.4

受け入れ実習生

学校	生徒	期間	内容
日高特別支援学校	高3女子	5/29～6/9	野菜や衛生用品の袋詰を体験、根気良く作業ができていました。
山田特別支援学校	高2男子	6/19～6/30	様々な受託作業を体験、徒歩で通所され頑張られた。
若草特別支援学校	高3男子	8/21～25	碁石茶等の作業を体験。 丁寧な作業を心掛けてくれました。

イ 毎月 20 万円以上の売上を達成し、就労会計の黒字化を目指しました。

売上、工賃実績は以下のとおりです。

(ウ) 目標工賃を¥15,000 としていましたが、平均工賃計算式の変更等もあり、¥18,185 の実績となりました。

作業名		令和4年度	令和5年度	予算(目標)	対前年度比
印刷受注窓口		¥562,125	¥642,785	¥564,000	114.3%
軽作業部門		¥2,139,732	¥2,195,794	¥1,680,000	102.6%
内訳	ミニパック	¥169,333	¥155,225	¥150,000	91.7%
	碁石茶組合	¥215,070	¥210,936	¥240,000	98.1%
	南国ミロク	¥8,503	¥78,815	¥5,000	926.9%
	とさちよう物語	¥472,480	¥518,600	¥100,000	109.8%
	こだかさ	¥48,180	¥183,600	¥480,000	381.0%
	末広	¥182,854	¥137,221	¥115,000	75.0%
	道の駅等清掃	¥660,000	¥780,000	¥520,000	118.2%
	その他	¥400,406	¥131,397	¥70,000	32.8%
その他		¥69,690	¥81,600	¥60,000	117.0%
合計金額		¥2,771,547	¥2,920,179	¥2,304,000	105.4%
平均工賃		¥12,943	¥18,185	¥15,000	140.5%

事業計画(3) 課題解決・業務改善への取り組み

ア 福祉QC活動の推進

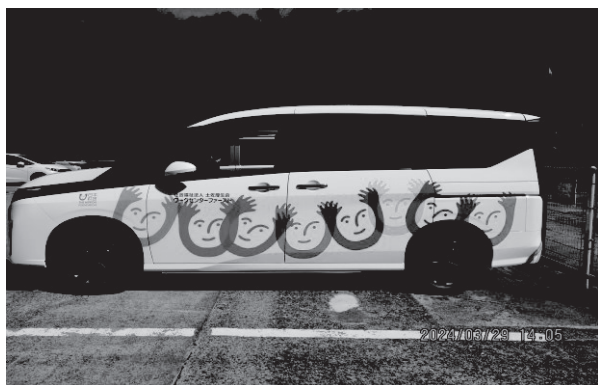
(ア) 福祉QC活動を推進します。

(イ) メンバー間でコミュニケーションを取り、それぞれの視点を持ち課題解決に努めます。

ア スタッフが参加し、福祉QC手法を用い、課題解決や業務改善に努めました。

3 その他事業報告

(1) 日本財団補助金を活用し、送迎車両の入替を実施しました。



(2) 防災避難訓練実施状況

訓練等	実施日	内容
火災訓練、消火器訓練	5/31、3/27	消防署への通報訓練及び屋外への避難訓練、終了後消火器使用訓練
地震・水害訓練	5/25 (水害のみ) 7/12、10/27、2/29	南海トラフ地震を想定し、発災3分後にヘルメット着用し、屋外へ避難。

(3) スタッフの配置状況

職種	常勤換算	職員数
所長（管理者）	0.2	1名（兼）
サービス管理責任者	1	1名（兼）
生活支援員（相談）	0.5	0.5名（兼）
職業指導員	1.5	1.5名（兼）
送迎運転手	0.3	1名
計	3.5	5名

(4) 施設への苦情等件数

受付先	件数
苦情等の申し出窓口	0
施設運営委員会	0

(5) 利用者満足度調査実施【回答者 12名】

満足度項目	意見
作業 93.7%	100%:9名、90%:1名、85%:1名 ・他の作業もしたい
職員 91.6%	100%:10名、50%:2名 ・自分の気持ちの問題ですが、作業で強く聞こえてしまうことがある。
個別支援 93.3%	100%:10名、70%:1名、50%:1名 ・ウエス作業以外にしたい作業はない。 ・他の人と一緒に作業したい。
施設 95.8%	100%:11名、50%:1名 ・特になし。

福祉ホームコーポラスこくふ 事業報告

1 事業の総括

利用者様の安心安全を確保し、地域社会の一員として自分らしく自立生活を送ることができる環境の提供と安定した経営体質を構築できるよう活動しました。大きな修繕等もなく、住みやすい環境の提供に努めましたが、利用者様の確保はできませんでした。

2 事業報告

事業計画(1) 利用者様の安心安全を確保し、住みやすい環境の整備を行います。

ア 施設内外の環境整備や突発的な修繕に迅速に対応します。

(ア) 草刈りや害虫駆除等定期的に施設周辺の整備を行います。

(イ) 関連業者と連携し、突発的な修繕にも迅速に対応します。

イ ウィール社と連携し、防災、感染症対策を行います。

(ア) 施設外から居室内まで行き届いた防災、感染症対策を行います。

ウ ゆとりのある生活を送ることができるよう、趣味活動やイベント参加を支援します。

(ア) 毎週の買い物支援

(イ) 園芸等の趣味活動やイベント等の情報提供

ア 施設内外の環境整備や突発的な修繕に対応しました。

(ア) 定期的に近隣の草刈りを行い、都度、蛇や蜂の巣の駆除を実施しました。

(イ) 関連業者と連携し、突発的な修繕にも迅速に対応しました。

6月	エアコンの入替	老朽化したロビーと管理人室のエアコンを交換
10月	漏水	機械室地下タンクより漏水。排水後配管を修繕
11月	AED設置	緊急時対応のため、AEDの設置。講習の受講

イ ウィール社と連携し、防災訓練、感染症対策を行いました。

訓練等	実施日	内容
火災訓練、消火器訓練	5/31、3/27	消防署への通報訓練及び屋外への避難訓練、終了後消火器使用訓練
地震・水害訓練	5/25(水害のみ) 7/12、10/27、2/29	南海トラフ地震を想定し、発災3分後にヘルメット着用し、屋外へ避難
火災報知器点検	12/20	消防機器点検。特に異常なし
居室防災対策確認	12/20	点検時に確認。特に異常なし
コロナワクチン接種	6/17、12/16	支援施設こくふでの集団接種にて対応

ウ 毎週末に南国市内のスーパーへの送迎を実施し、買物支援を行いました。また、南国市広報等を利用し、イベント情報の提供や、園芸などの趣味活動も行いました。

事業計画(2) 利用者様の確保を進め、経営の安定化に努めます。

ア 現在の満床を維持し、稼働率95%以上を確保します。

(ア) 通院や服薬支援を行い、健康管理に努めます。

(イ) 各関係機関や行政等に広報、営業活動を実施し、待機者の確保を進めます。

イ 家族様や各関係機関と連携し、速やかに入退所できる準備等を進めます。

(ア) 高齢利用者様には介護認定調査を勧め、今後の方向性を決めるために、地域の社会資源の情報提供も行います。

ア 11月末に、施設入所のため1名退所し、年間稼働率は96.9%でした。

月々の利用実績は下記のとおりです。

- (ア) 毎週のお薬カレンダーへの配付や通院対応にも支援を実施しました。
- (イ) 高幡地区行政担当者や、相談支援事業所にパンフレットの配布、空き状況の提供等を行いました。契約には至りませんでした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入居者	10名									9名			9.7名
稼働率	100%									90%			96.7%
前年度	90%			100%									98.3%
備考	11/末 K様こくふへ入所のため退所。												

- イ 家族様や各関係機関と連携し、速やかに入退所できる準備等を進めました。
- (ア) 介護保険や障害者サービスを利用し、2名の方がヘルパーの利用を開始しました。

3 その他の事業報告

- (1) 利用者満足度調査を実施 【回答者9名 満足度58.3%】

満足度	回答者	意見
満足 (やや満足を含む)	3名	・職場が近い ・自由度が高い
普通	5名	・特になし
不満 (やや不満を含む)	1名	・食事に魚が多い ・買物が不便 ・苦手な利用者がある

障害者支援施設ステージ桜が丘 事業報告

1 事業の総括

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症5類へ移行したが、これまで同様に感染対策を実施するとともに嘱託医と連携を持ち、保健所管内の状況を考慮しながら面会や外泊、居室への立ち入り等の緩和をすることができた。

また、外部の交流に関しては、日赤奉仕団の受入れ再開、よさこい踊りの演舞見学や高校生マルシェへの協力など、感染対策を講じながら実施することができた。

2 事業報告

事業計画(1) サービスの向上
会是に基づく支援の提供を目標とし、接遇教育の実施と各部署の役割と支援内容の明確化を行い、PDCAサイクルによるサービス提供を行います。また、日中活動の充実や障害特性の学習を行い、利用者満足に繁栄できるよう努めます。

ア 接遇教育の実施
イ 部署活動の充実
ウ 日中活動の充実
エ 障害特性についての学習

接遇教育の一環として、毎月職員会や朝礼時において、会是の浸透、支援姿勢や接遇の意識付けに取り組んだ。人事考課と育成に関しては、個別面談や指導を行い、スタッフ個々の支援力向上に取り組んでいる。自己決定を促す支援の実施に向けて、介護主任を中心に、介護会において支援方法の統一を目的として、個別支援マニュアルを作成し、ケース会等で年度評価や見直をしている。

事業計画(2) 経営の安定
稼働率96%を目標として、利用者確保に努めます。ステージ桜が丘の活動や方針を対外的に広く知っていただけるよう、広報誌の充実を図ります。

ア 営業活動の強化
イ 広報誌発行

令和5年度は広報紙を3回発行することができた。また、広報誌発行月を目安に行政及び福祉事務所への訪問営業活動等を実施し、入所相談や施設の空床状況などについて情報交換を行った。入所申込みからアセスメント決定までの目標を5日以内に設定し期間短縮に努めた。50床満床を目標に関係機関等との調整に努めた結果、年度末には新規入所予定者2名の確保につながったが、施設入所稼働率92.7%、生活介護稼働率93.7%、短期入所63.9%で令和5年度を終了となり、入所及び生活介護の目標稼働率達成はできなかった。

入所の稼働率低下の要因として、令和5年度は毎月1～2名の入院が発生したためである。看護と介護の連携により水分・排泄チェック表を活用し、異常の早期発見に努め、家族や主治医への連絡を適宜行うなど、健康管理に留意して取り組んだ。

引き続き、チーム支援を念頭により良い支援に取り組んでいく。

事業計画(3) 課題解決・業務改善への取り組み
ア 福祉QC活動の強化
(ア) 福祉QC活動の実践とおして、施設の課題解決・業務改善に取り組む。
(イ) メンバー間でコミュニケーションを取り、それぞれの視点を持ち課題解決に努める。

年度当初より、QCメンバーの編成・課題の抽出及び選定などを行い積極的に取り組んだ。事例に関しては失敗と成功を繰り返しながら取り組みを進める中で、8月に新型コロナのク

ラスターが発生したことにより1か月以上活動が中止となり、取り組みがすべて振出しに戻ってしまうなどのアクシデントもあったが、9月下旬から取り組みを再スタートした。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率 (単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
施設入所	91.3	91.4	91.4	93.2	92.3	93.9	93.5	93.7	91.9	92.8	93.0	93.9	92.7
生活介護	94.3	94.3	93.1	95.0	93.9	93.0	93.7	93.1	93.2	93.1	93.1	94.4	93.7
内 訳	入所	91.5	91.7	90.4	92.3	92.2	92.9	92.3	92.3	92.4	92.5	93.7	92.2
	通所	2.7	2.6	2.7	2.7	1.7	0.1	1.4	0.8	1.0	0.7	0.7	1.5
短期入所	68.3	71.0	71.7	108.1	40.3	31.7	59.7	70.0	46.8	58.1	65.5	75.8	63.9

(2) 年間行事等

ア 施設の行事

(ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力や感受性の向上 ・協調性を養う ・心身のリラックス 	<ul style="list-style-type: none"> ・オセロ・かるた・トランプ ・映画鑑賞・カラオケ・楽器演奏
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・心身のリラックス ・身体の動き ・筋力、機能維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング・風船バレー ・ボッチャ・周回歩行
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・集団（社会）適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・協調性を養う ・思考性を養う ・感受性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぬり絵・計算ドリル ・パズル・クイズ ・生花・飾り物制作
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・手、指の操作性 ・身体の動き ・観賞、食する喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸（野菜、果物、花の栽培） ・作物、畑の手入れ、収穫 ・調理
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換 ・社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物・ドライブ ・花見

(イ) 年間行事

行事名	実施月	備考
花見外出	4月	外出先：安芸市営球場、伊尾木桜並木、内原野
吉野家（牛丼）外注	6月	委託業者と連携して実施
スイカ割り	6月	日中活動で育成したスイカで実施
焼き芋	11月	南風と合同開催
クリスマス会	12月	感染対策のため小規模開催

大人のお子様ランチ	1月	利用者様に大好評にて、リクエスト依頼多数あり
節分豆まき	2月	鬼2体の出現と豆まきで邪気払いを実施

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容	対象
預金引出	金銭管理者が、希望者様の通帳管理及び処理を行う。	入所
移動スーパー	金曜日（午前中）に移動スーパーが来所し、利用者様が事前注文した生活物品を購入する。	入所

イ 地域住民等との交流

	内 容
5月	高知県立安芸高等学校学生と合同で千歳町児童公園前の海岸で行われた清掃活動に参加
8月	安芸市役所よさこいチームの訪問があり、施設駐車場において「よさこい鳴子踊り」の演舞が披露された。
10月	安芸市防災センターで開催された福祉避難所開設訓練に参加する。 同訓練には福祉施設や行政など19の団体が参加
11月	安芸市西八幡宮の秋祭りに参加、安芸市内を練り歩く。 第2回すまいるマルシェに高知県立安芸高等学校学生と合同で出店
12月	安芸ドームで開催されたスポーツ交流会に参加し施設紹介ブースを設置 同イベントには安芸市内にある障害者関連16事業所が共同で開催
1月	西浜地区自主防災訓練に参加 平成福祉専門学校介護実習1名（安芸市出身）を受け入れ
2月	高知県立大学介護実習3名（安芸市出身2名・香南市1名）を受け入れ

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	実施月	合計
火災	7月・11月・1月	3
地震	6月・9月・12月・3月	4
風水害	6月	1

(4) 施設への苦情等件数

受付先	計
意見箱への投函	0
施設運営委員会(月例会)	1

(5) スタッフの配置状況（令和6年3月31日現在）

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長（管理者）	1	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	1.5	2	0	管理栄養士	1	1	0

医師（嘱託医）	0.1	0	1	事務員	1	1	0
看護職員	2	2	0	用務員・技師	2.9	1	3
生活支援員(介護)	26.6	22	7	夜間警備員	1	0	3
生活支援員(相談)	0.5	1	0	合計	38.6	32	14

(6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催時期	主催	参加者
安全運転管理者研修	5月	安全運転管理者協議会	事務員
福祉QC入門講座	6月	全国社会福祉協議会	施設長
施設長実学講座	7月	日本福祉施設士会	施設長
	8月		
	10月		
高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	8月	高知県社会福祉協議会	生活支援員
全国福祉施設士セミナー	9月	日本福祉施設士会	施設長
外国人介護人材受入れセミナー	9月	高知県社会福祉協議会	施設長
福祉施設長専門講座	9月 2月	日本福祉施設士会	施設長
高知県障害者虐待防止・権利擁護研修	10月	福祉研修センター	生活支援員
中四国ブロック福祉施設士セミナー・福祉QC発表	10月	福祉研修センター	施設長 生活支援員
ケアリーダー研修	10月	福祉研修センター	生活支援員
	11月		
中堅職員ステップアップ研修	11月	高知県福祉人材センター	生活支援員
チームリーダー研修	12月	福祉研修センター	生活支援員
福祉施設士の役割と権利擁護	12月	日本福祉施設士会	施設長
介護職種の技能実習指導員講習	1月	日本介護福祉士会	生活支援員
視覚障害基礎講座	1月	高知県障害福祉課他	生活支援員
中国・四国ブロック災害支援セミナー	2月	高知県社会福祉法人経営者協議会	施設長

特別養護老人ホーム八流荘 事業報告

1 事業の総括

経営と運営の安定化を大きな目的として、経費削減とケアの質の向上に取り組みました。適切な事業のために必要なこととして、また実践可能なこととして計画を立てましたが、深刻なスタッフ不足により進捗が大幅に遅れる結果となりました。しかし、スタッフ数に関係なく取り組める不適切ケア・待遇改善は一定の効果が表れ、またその他のことも次につながる準備としては成果となりました。

2 事業報告

事業計画(1) 経営の安定化

ア 経費削減

(ア) 紙おむつに係る経費の削減

(イ) 人件費に係る時間外勤務の削減

紙おむつについて、経費削減といった施設の一方的な都合とならないように外部アドバイザーの協力のもと、ケアの質の担保と経費削減の両立が可能となるよう取り組みました。具体的には利用者様個々の排尿のパターンを把握し、排尿間隔や尿量により適切な紙おむつの選定、交換回数・交換時間の設定を行いました。また、単価の高いテープ止め紙おむつの使用率が高い傾向であり、適正化（リハビリパンツへの移行）が必要であることが分かりました。しかし、令和5年度は削減できず、増額となりました。おむつや輸送コストの増額と商品の入れ替えによる在庫品との重複などが要因と分析しています。時間外勤務の削減については、介護スタッフ不足により取り組みと結果を残すことができませんでした。人員不足により人件費の総額は前年度比で減少しているものの、時間外手当は増額となりました。介護スタッフ確保について厳しい状況ではあるものの、令和5年度は3名の中途採用を行いました。引き続き採用活動に力を入れていきます。また、介護記録支援ソフト（タブレット）の運用を実践してきましたが、前述の通りスタッフ不足により時間外勤務減少への効果は確認できませんでした。ただし、間違いなく入力や転記作業に係る時間は削減できていると判断をしています。

事業計画書(2) 介護の品質向上

ア 接遇力（言葉使い）の向上

イ 排せつケアの向上

虐待防止・身体拘束廃止委員会に全職種が参加し、それぞれの視点での活発な意見交換を実施しました。主として不適切・接遇アンケート結果に基づく改善の活動を実施しました。実態の把握、改善すべき事柄、具体的手法の検討・実施、評価といったPDCAサイクルを意識しながら取り組み、アンケート結果や施設の実態も改善が見られました。また、虐待防止のために理解度向上テスト（初級）を実施し、スタッフの資質向上に努めました。テスト実施の効果を単体で判断することは困難ですが、施設の状況改善に一役買っていると考えています。

法人不適切アンケート結果 4月 109項目 → 3月 17項目

接遇アンケート結果（客観評価） 5月 25.5点 → 2月 36.9点

排せつケアの向上として布パンツ使用率の向上を掲げておりましたが、スタッフ不足の影響により取り組むことができませんでした。

3 その他事業報告

(1) 月間稼働率の状況 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入所	94.2	96.8	93.9	94.6	93.2	95.0	95.1	97.4	95.2	92.1	90.4	92.8	94.2
短期	80.7	71.0	48.7	61.0	79.4	67.0	51.9	46.7	63.5	59.7	65.9	63.6	63.3

(2) 年間行事等

行 事 名	実施月	備考
お花見	4月	敷地内で桜の見える場所でお菓子などを召し上がって頂いた。
誕生日会	4月	4月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	4月	チョコレートのババロアを作り召し上がって頂いた。
誕生日会	5月	5月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	5月	ホットケーキを作りお好みのトッピングで召し上がって頂いた。
誕生日会	6月	6月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	6月	プリンを用意しお好みのトッピングで召し上がって頂いた。
誕生日会	7月	7月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
スイカ割り	7月	利用者様にスイカを割ってもらい、召し上がって頂いた。
七夕	7月	利用者様に短冊を書いていただき、一緒に飾り付けを行った。
誕生日会	8月	8月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
長寿を祝う会	9月	米寿等の節目を迎えられた方を始めとして利用者様全員の長寿と健康を祝い、祝い膳を召し上がって頂いた。
誕生日会	9月	9月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	9月	かき氷を作りお好みのトッピングで召し上がって頂いた。
誕生日会	10月	10月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	10月	ぜんざいを利用者様と一緒に作り召し上がって頂いた。
百歳の祝い	10月	100歳を迎えられた利用者様2名について、ご家族、安芸市副市長をお招きし、皆でお祝いした。
誕生日会	11月	11月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
焼き芋	11月	利用者様に手伝ってもらいながら芋を焼き、でき上がったものを召し上がって頂いた。
誕生日会	12月	12月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
クリスマス会	12月	クリスマスの飾り付けを行い、クリスマスの雰囲気を感じて頂きながらクリスマスケーキを召し上がって頂き、施設からのプレゼントをお渡しした。
年忘れ会	12月	映画鑑賞やカラオケを楽しんでいただいた後、特別な年末の食事を召し上がって頂いた。
新年会	1月	正月料理をゆっくり召し上がって頂きお正月気分を味わって頂いた。
誕生日会	1月	1月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
おやつ作り	1月	たい焼きを作り召し上がって頂いた。
節分	2月	利用者様と一緒に豆まきを行った。
誕生日会	2月	2月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。
誕生日会	3月	3月生まれの利用者様を利用者様・スタッフでお祝いした。

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

種別	時期	合計
避難誘導	9月、10月、12月	3回
消火	12月	1回
通報	10月、12月	2回
地震	9月、10月、12月	3回
夜間避難	9月、12月	2回

(4) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催時期	主催	参加者
老施協 JS 次世代委員会 カントリーミーティング	4月	高知県老人福祉施設協議会	業務課長 介護主任
経営協総会（セミナー）	5月	高知県社会福祉法人経営者協議会	施設長
コロナ5類移行説明会	5月	安芸福祉保健所	業務課長 看護主任
安全運転管理者講習会	5月	高知県公安委員会	事務主任
福祉 QC 入門講座	6月	日本福祉施設士会	施設長 業務課長 生活相談員 介護支援専門員 介護主任 看護主任 管理栄養士
福祉施設長専門講座	9月 2月	日本福祉施設士会	施設長
食と栄養の会研修	9月	食と栄養の会	管理栄養士
福祉施設士会ブロックセミナー	10月	日本福祉施設士会	施設長 業務課長
福祉避難所資機材訓練	10月	安芸市	施設長 業務課長
管理職研修	11月	福祉研修センター	業務課長
中堅職員ステップアップ研修	11月	福祉研修センター	介護職員
第2回全国老人福祉施設大会研究大会	12月	全国老人福祉施設協議会	施設長 介護支援専門員 看護主任
第21回四国老施協セミナー	1月	四国老人福祉施設協議会	施設長 業務課長
安芸圏域地域包括ケア 推進協議体パネラー参加	1月	安芸福祉保健所	業務課長
技能実習指導員講習	1月	高知県介護福祉士会	業務課長 介護主任
2024年度介護報酬改定セミナー	2月	あいおいニッセイ同和損保	業務課長
人材課題解消セミナー	2月	あいおいニッセイ同和損保	業務課長
認知症介護基礎研修	3月	認知症介護研究・研修仙台センター	業務課長 介護職員

ホームヘルプステーションやながれ 事業報告

1 事業の総括

顧客満足度向上と経営安定を目指して事業計画を立案しましたが、慢性的な訪問介護員不足により十分な取り組みができませんでした。そのような状況でも、接遇に対する不満を含む苦情の受付はなく、経営状況も前年度より改善できたことは一つの成果であると感じています。

2 事業報告

事業計画(1) 利用者満足度のアップ

ア 接遇マナーをメインにした利用者満足度調査

- (ア) 利用者満足度調査の集計と課題抽出する。
- (イ) 事業所として全員が取り組む課題を決定
- (ウ) 各自が個人別研修計画作成する。
- (エ) 利用者満足度調査の再調査により確認をする。

イ 法人理念に基づく支援の徹底

- (ア) 法人理念をもとにしたサービス提供について互いに事例を出し合って勉強会開催
- (イ) 新人職員研修計画の見直し
- (ウ) 統一した支援のための手順書作成

ウ 接遇マナーの徹底（ヘルパーの接遇に対する不満ゼロ）

- (ア) ヘルパーの接遇マナーについての研修開催
- (イ) 巡回による接遇マナーの確認と個人指導
- (ウ) 困ったときはすぐに電話で相談できる環境を作る。（他スタッフの予定等）

令和4年度に実施の満足度調査から把握した課題を共有し、解決すべき項目について検討し実施しました。スタッフ個々の研修や会是に基づく支援マニュアルを基に研修を実施し、スタッフ・事業所の質の向上に努めました。人員不足のため年間を通して継続的に取り組むことができませんでしたが、接遇に関することを含めスタッフ・事業所に対する苦情などの受付はありませんでした。

事業計画書(2) 経営の安定

ア 訪問件数の確保

- (ア) 1件/月の新規依頼、又は訪問回数の増加を獲得する
- (イ) サービス提供責任者の増員

イ 介護保険サービスの提供拡大

- (ア) 介護保険外サービス事業の利用提案
- (イ) その人らしい生活に必要な介護保険外サービスの提供

年度当初常勤スタッフを新たに配置し多くのケースを受け入れていたが、スタッフの急な退職により、残ったスタッフで多くのケースの対応をすることとなりました。その後、スタッフの心身の負担や業務全般を考え、新規ケースの受入れ調整と下半期からケース数を落として運営をしてきました。4月の契約者数40名（訪問延330件）から、3月は契約者数36名（訪問延260件）と大幅に減少しましたが、決算は前年度を上回るプラスとなりました。

在宅介護支援センターやながれ 事業報告

1 事業の総括

令和5年度の事業計画の実践直前に主任介護支援専門員が退職し、今後の事業の継続は不透明となり、計画に基づいた実践は行えませんでした。事業所は2月末で休止決定となり、人材育成や人材確保については課題が残されました。利用者様やご家族には、誠意をもって他居宅支援事業所への引継ぎの対応をさせていただきました。

2 事業報告

事業計画(1) 事業所の周知

- ア 小規模多機能型居宅介護事業所南風と共同し各関係機関への営業活動を行う
- イ 包括や医療機関に新規利用者の紹介を依頼する
- ウ 地域の世話役に事業所の活動を知っていただく
- エ 担当利用者の知人や近所の協力者の方に来ていただく

前期は小規模多機能型事業所南風との日程調整がつかず、一緒に活動することはできませんでした。医療機関との連絡調整時には新規依頼をはじめ、南風と共同できることの説明を行いました。後期は積極的な周知活動は行いませんでした。

事業計画(2) 地域住民との顔の見える関係性作り

- ア 地域ごとに活動している小さな集団の情報収集
- イ 地域の集団に協力できることを探し、活動に参加する。
- ウ 地域の世話役などと意見交換のできる場を持ち地域の課題を聞き取る。

赤野地区にとどまりましたが、地域づくりの会に参加し、困りごとの聴き取り、関係性作りに努めると共に、人材についての情報提供を受けるなど、関係性作りを行いました。

事業計画(3) 信頼関係の構築

- ア 利用者や関係機関との信頼関係の構築
- イ 訪問時には利用者の意向を傾聴し、寄り添った支援で信頼を得る
- ウ 利用者の急な相談ごとにも丁寧に応じる
- エ 関係機関とこまめな情報交換をすることで関係性を構築する

利用者様、ご家族にはわかりやすく説明することで些細なことでも相談していただけるように努めました。

3 その他事業報告

(1) 事業休止に伴う対応について

休止決定後、利用者様には、誠意を持って謝罪するとともに、十分に希望を聴き取り、居宅支援事業所の紹介を行いました。また、諸手続きにできるだけご迷惑をおかけしないよう、サービス計画見直し月に合わせ引継ぎを行い、全員の引継ぎを終了しました。

1月：3名、2月：12名、3月：入院者2名

(南風利用予定1名、八流荘入所の待機中1名)

小規模多機能型居宅介護事業所南風 事業報告

1 事業の総括

令和5年度は、感染症対策に取り組みながらステージ桜が丘や地域との交流活動を継続することができました。また、市民館に出向き地域課題の相談対応の機能を担えるよう関係性づくりを行いました。会是に基づいた接遇向上に努めることで、不適切ケアの理解や虐待防止・権利擁護等知識を得る機会ができたと考えています。令和6年度も引き続き研修等の機会を設け、スタッフの資質向上に取り組んでいきます。

2 事業報告

事業計画(1) 地域へ事業所の周知

- ア 地域の公民館活動や地域行事（桜が丘高等学校との清掃活動、四季のイベント等）に参加
- イ 周辺地域（染井町等）へパンフレット配布
- ウ 利用者様の地域資源（介護保険外サービス等）の活用支援
- エ 市民館との協力・連帯

- ア 清掃活動や子供食堂等、地域行事に参加、交流を行った。
- イ 周辺地域へのパンフレット配布はできなかったが、市民館に事業所のパンフレットを設置した。
- ウ 散髪や通院等の生活支援の中で資源活用ができた。
- エ 市民館の意見交換会に出席した。

事業計画(2) 会是に基づいた接遇向上

- ア 定期的な虐待防止・身体拘束廃止委員会開催し権利擁護等について話し合う。
- イ 知的障害や認知症理解を深めるため、内部や外部研修参加の実施
- ウ マニュアルを用いて会是に基づく支援や権利擁護について研修実施
- エ 風通しの良い職場環境整備の推進
- オ 人間関係作りの推進
- カ スタッフのストレス軽減の対応
- キ 不適切ケアについてアンケート実施
- ク 家族会の開催（2回/年）。人権教室や南風に対しての評価意見等聞くように実施

- ア 月1回の虐待防止・身体拘束廃止委員会を開催して、権利擁護等の意識を深めることができた。
- イ 認知症理解のための内部研修を開催した。
- ウ 虐待防止・身体拘束廃止委員会や、不適切ケアアンケート実施により権利擁護等、スタッフの理解を深めることができた。
- エ 意見が通りやすい雰囲気作りや、スタッフへの声掛けに努めた。
- オ 新人スタッフに積極的に声を掛け、馴染みやすい雰囲気作りに努めた。
- カ 面接や業務の合間にスタッフに声を掛け、ストレスに感じていることがないか把握に努めた。
- キ 月1回の不適切ケアアンケートに取り組んだ。
- ク 家族会は、10月に開催し家族の意見等聞くことができた。3月は出席者が少なく中止したが、事前にアンケートを配付し意見を聞くことができた。

障害者支援施設とさ 事業報告

1 事業の総括

関係法令を遵守し、法人の会是を基本理念として、利用者様の人権の尊重と自己決定・自己選択及び自立に向けた支援に努め、利用者様が安心・安全な生活ができる支援を行いました。また、「利用者様を大事にする想い」を合言葉とし、虐待防止委員が中心となり、不適切支援をなくす取り組みに継続して取り組みました。

2 事業報告

事業計画(1) 接遇力の向上 ア 接遇についての実態把握 イ 部署活動の充実 ウ スタッフの人材育成

法人全体で取り組んでいる155項目の不適切支援アンケートを毎月実施し、スタッフには「利用者様を大事にする想い」を合言葉とし不適切支援をなくす取り組みを行い、3月には不適切支援項目「あり」は2項目まで減らすことができました。部署活動については、毎月開催している事業活動推進会にて進捗状況の確認を行い、計画に沿った活動が実施できるように努めました。

事業計画(2) 業務負担軽減 ア 補助金を活用し老朽化した機器を最新機器に買い替え、スタッフの身体的負担の軽減を図る イ ノーリフティングケアの推進
--

給湯システムのエネルギー源は重油であったが、法定点検にて地下タンクに穴が開いていたことがわかったことと給油ボイラについても経年劣化があり、エネルギー源を重油からガスへ移行する工事を行った。効果測定を毎月実施しており、水道光熱費については、4月より電気・水道共に単価が上がっているが使用料については前年度よりも下がり、エネルギー源移行による経費削減は達成することができました。また、介護ロボット補助金を活用し、センサーベッド2台を導入、スタッフの身体的負担軽減に努めました。

毎月、ノーリフト委員会を開催し、ノーリフティングケアの推進を図りました。

事業計画(3) 課題解決・業務改善への取り組み ア 福祉QC活動の推進
--

生活支援員を中心として、QCサークルを結成し「日中活動に楽しく参加」をテーマに取り組みました。福祉QCストーリーに基づき実践をし、12月4日「福祉QC全国発表大会」に参加し発表を行いました。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率 (単位: %)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
施設入所	87.9	87.9	93.3	93.0	93.9	93.9	94.5	92.5	94.8	95.6	96.7	97.0	93.4	
生活介護	83.8	84.9	88.0	87.5	88.8	87.2	89.2	86.6	88.7	90.9	89.7	89.0	87.9	
内訳	入所	85.6	85.8	89.8	89.5	91.6	93.3	91.8	87.7	90.4	94.1	91.8	91.7	90.3
	通所	74.5	80.4	78.6	77.8	74.8	56.8	76.1	80.9	80.0	75.2	75.2	75.2	75.5
短期入所	60.8	74.2	72.5	58.9	65.3	49.2	94.4	83.3	76.6	33.1	74.1	86.3	69.1	

(2) 年間行事等

ア 施設の行事

(ア) 日中活動

種目	目標	実施内容
室内 娯楽	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力や感受性の向上 ・協調性を養う ・心身のリラックス 	<ul style="list-style-type: none"> ・オセロ・卓球バレー・風船バレー ・かるた・トランプ・ボッチャ・玉入れ ・DVD鑑賞・もぐらたたき・輪投げ ・ボーリング・ラダーボール
作業 療法	<ul style="list-style-type: none"> ・手指の細かい動作能力を高める ・心身の耐久性を高める ・協調性、思考性、感受性を養う ・意思・意欲の向上 ・認知能力を高める ・自立生活能力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理話し合い ・調理(餃子、サイダーゼリー) ・作品作り(丸シールアート、あじさい、こいのぼり、七夕飾り) ・七夕飾り付け・クリスマス飾り ・正月飾り・ひな飾り・個人創作 ・スピリットアート出展(仁淀ブルーのこいのぼり)・ハンカチアート
学習系	<ul style="list-style-type: none"> ・集団(社会)適応能力を高める ・手指の細かい動作能力を高める ・認知能力を高める ・協調性を養う ・思考性を養う ・感受性を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・視力トレーニング・暑中見舞い・豆まき ・書道・ぬり絵・違う絵探し ・新聞作り・折り紙・間違い探し ・なぞり書き・文字練習・福笑い ・個別学習・声の広報・地域学習 ・絵馬風コースター作り・書初め
音楽 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップやリラックス ・仲間作りや雰囲気づくり ・発声訓練や身体の体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム音楽・カラオケ・音楽鑑賞
園芸 療法系	<ul style="list-style-type: none"> ・手・指の操作性 ・身体の動き ・観賞、食する喜び 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物(大根、ミント) ・栽培(ひまわり、なでしこ) ・作物や畑の手入れ・新聞作り ・押し花・収穫物の調理
外出	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換・社会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ・花見
生産 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加 ・協調性や自活能力を高める ・意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りパン販売・鏡餅作り
機関紙	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせ、紙面づくり、送付準備
美活	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持・心身のリラックス ・意思・意欲の向上・気分転換 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア・ハンドケア・ネイルケア ・オーラルケア
美食	<ul style="list-style-type: none"> ・気分転換、意思や意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い・スイーツ等取り寄せ(水さやかゼリー・おいもプリン・パパヘラアイス・栗きんとん水まんじゅう・クリスマスケーキ・生チョコプリン)・会食

(イ) 年間行事

行事名	実施日	実施場所(※備考)
中庭昼食	5/10	とさ中庭
波介小学校大運動会	5/20	波介小学校
ふれあい交流会	5/31	とさホール ※入所のみ

彼岸の法要	9/21	楓の間 ※スタッフのみ
秋風祭	10/21	とさ中庭
新年会	1/10	とさホール
安全祈願祭	1/11	楓の間 ※スタッフのみ
節分豆まき	2/2	とさホール
卒業生へ花苗贈呈	3/19	波介小学校・高石小学校
卒業式参加	3/21	波介小学校
彼岸の法要	3/22	楓の間

(ウ) 生活利便のサービス

	内 容	対 象
預金引出	火曜日に行員が来所、希望者様の通帳処理を行いました。	入所
買物	水曜日に希望日用品を代行して購入しました。	入所
パンの販売	月2回程度、業者が来所してパンを販売しました。	入所・通所
移動スーパー	水曜日に移動スーパーが来所、利用者様が選択して生活物品を購入されました。	入所・通所

イ 地域住民等との交流

波介下東地区のモーニングサロンが毎月第2水曜日に実施されており、毎月施設長やスタッフが参加し、地域住民との交流を図ることができました。6月に実施した防災・学習訓練にはスタッフ5名が参加しました。交流イベント開催時にはパイプ椅子などの物品を貸し出し、積極的に地域交流を図りました。コロナ禍で中止していた小学校との交流事業については、5月に波介小学校の大運動会に利用者様とスタッフが参加しました。また、波介小学校と高石小学校の卒業生12名に花苗贈呈を行い、波介小学校の卒業式に参加しました。

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導			6/21					11/8					2回
消火			6/21					11/8					2回
通報	4/17		6/21		8/1		10/3	11/8	12/11	1/12	2/2		8回
地震	4/17		6/21		8/1	9/1	10/3	11/8	12/11	1/12	2/2		9回
凶上			6/21					11/8					2回
夜間避難			6/21					11/8		1/12			3回
救急法													0回
水害対応		5/17											1回
不審者対応													0回

※三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止。

(4) 施設への苦情等件数

受 付 先	施設内の問題	その他の問題	計
とさの苦情等の申出窓口	0	0	0
とさ地区施設運営委員会	0	0	0

(5) スタッフの配置状況 (令和6年3月31日現在)

職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)	職種	常勤 換算	常勤 (人)	非常勤 (人)
施設長 (管理者)	0.7	1	0	理学療法士	1	1	0
サービス管理責任者	2	2	0	管理栄養士	1	1	0
医師 (嘱託医)	0.02	0	1	事務員	3	3	0
看護職員	5	5	0	用務員	0.2	0	1
生活支援員 (介護)	29.8	25	8	夜間警備員	1	1	0
生活支援員 (相談)	2	2	0	合計	45.72	41	10

(6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催時期	主催	参加者
中・四国身体障害者施設協議会施設長研修会	5月	中・四国身体障害者施設協議会	施設長
施設長実学講座	7月～12月 (6回)	福祉施設士会	施設長
業務効率向上のための時間管理研修	7月	介護労働安定センター	生活支援員
土佐市地域医療カンファレンス	7月	土佐市	施設長
土佐市ネットワーク協議会職員研修	8月、11月	土佐市ネットワーク協議会	施設長・施設長補
虐待防止・権利擁護中堅研修	8月	高知県	生活支援員・PT
福祉・介護若手職員の研修会	9月	高知県	生活支援員
福祉サービス苦情解決セミナー	9月	高知県運営適正化委員会	施設長
中堅職員研修	9月(2日)	福祉研修センター	生活支援員
高知県身体障害者施設協会生活部会研修会	9月	高知県身体障害者施設協会	施設長、施設長補
スーパービジョン理論に基づく 部下指導研修	10月	福祉研修センター	生活支援員主任
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー	10月	福祉施設士会	施設長・事務主任
虐待防止・権利擁護管理者研修	10月	高知県	事務主任
中・四国身体障害者施設職員研修大会	10月(2日)	中・四国身体障害者施設協議会	生活支援主任・PT・ 看護・栄養士他2名
中・四国身体障害者施設協議会 支援職員研修会	11月(2日)	中・四国身体障害者施設協議会	施設長
福祉・介護事業所BCP策定セミナー	11月	高知県	生活相談員
ケアリーダー研修会	10月、11月	福祉研修センター	生活支援員
給食施設関係者研修会	11月	中央西保健所	栄養士
福祉QC全国発表大会	12月	福祉施設士会	生活支援主任・ 生活支援員
虐待防止・権利擁護リーダー研修	11月	高知県	生活相談員
中堅職員ステップアップ研修	11月	福祉研修センター	生活支援員
チームリーダー研修	12月(2日)	福祉研修センター	PT
チーム力強化と中堅・ベテラン職員の役割	12月	介護労働安定センター	生活支援員
中・四国身体障害者施設協議会施設長研修会	2月(2日)	中・四国身体障害者施設協議会	施設長

就労継続支援B型事業所カトレア 事業報告

1 事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者様が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識及び技能を高める就労支援をしました。会是の「愛情」「奉仕」「連帯」の精神を遵守し、『個性と可能性を活かすことが成長への第一歩』をスローガンとし、土佐厚生会の経営理念を念頭に置き、事業計画を達成できるようスタッフ間で共有を図り、一丸となって成果を出せるように努めました。

2 事業報告

事業計画(1) 利用者様の生活面・就労面の自立に向けた支援の充実を図る

ア 接遇力の向上

イ 良質なサービスの向上を図る

法人就労事業所で取り組んでいる58項目の不適切支援アンケートは「あり」の項目はゼロとすることができました。利用者様一人一人が今よりもできることをひとつでも増やし、豊かな生活が送れるよう努めました。生活面の個別支援計画課題達成は60%、就労面の個別支援計画課題達成は55%でした。

事業計画(2) 就労支援活動の推進については、就労会計の黒字化の継続ができるように各作業部門が収益率を向上し、年間売上¥13,400,000を達成と利用者様の平均工賃は23,000円を目指します。

ア 乾燥工場

乾燥野菜チップの売上や農福連携に取り組み、売上目標¥4,460,000を目指します。

イ 食品加工

HACCP商品の販売先を増やすため、高知県産品会に参加し、農福連携にも取り組み軽作業の種目の充実を図り、売上目標¥4,700,000を目指します。

ウ 喫茶

一日平均売上定食数20食以上を継続し、売上目標¥2,700,000を目指します。

エ 清掃・空調

障害者支援施設とさの清掃業務と空調清掃や剪定作業を請負、売上目標¥1,540,000を目指します。

ア 乾燥工場

乾燥生姜チップ売上が令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、(株)サニーフーズの発注はなかったが、積極的な営業の成果と感染症の影響が落ち着いたことで、今期注文量は3,500kgの発注を受けることができ、売上¥12,847,576計上することができました。野菜の乾燥請負も積極的に請負、乾燥工場の年間売上額は、¥16,432,869となり目標額を達成することができました。

イ 食品加工部

食品加工部の年間売上額は、¥5,545,872となり目標額を達成することができました。高知県産品会に参加し新規取引先を増やすことに努め、新規取引先を獲得することができました。売上額向上を目指すため、高知県障害者生産活動支援事業費補助金を活用し、出店時に活用するテーブルクロス作成と、自社製品製造には欠かすことのできない殺菌水精製機1台を増設しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで出店販売の機会も増え、積極的に出店販売に参加しました。土佐市役所(土佐市主催)で開催される「ハッピーとさテラス」にも年間4回、利用者様と共に参加しました。

ウ 喫茶部門

新規弁当配達先として土佐市健康福祉センターの受注を獲得することができました。年間売上額は、¥2,640,194 で目標達成することができませんでした。

エ 清掃・空調

年間計画通り作業請負を行いました。売上額は¥1,480,000 の計上となり、目標達成することができませんでした。

作業部門	令和4年度	令和5年度	予算(目標)
ア 乾燥工場	¥4,051,425	¥16,432,869	¥4,460,000
イ 食品加工	¥5,252,246	¥5,545,872	¥4,700,000
ウ 喫茶	¥2,760,356	¥2,640,194	¥2,700,000
エ 清掃・空調	¥1,480,000	¥1,480,000	¥1,540,000
合計金額	¥13,544,027	¥26,098,935	¥13,400,000
平均工賃	¥21,562	¥25,406	¥23,000

各作業部門が収益率の向上に取り組み、就労会計の黒字化の継続ができました。利用者様に期末手当の支給を実施し、平均工賃は¥25,406 と大きく向上することができました。

事業計画(3) 課題解決・業務改善への取り組み

ア 福祉QC活動の推進

スタッフ7名でQCサークルを結成し「農福連携の取り組みについて」をテーマに取り組みました。福祉QCストーリーに基づき実践をし、12月4日「福祉QC全国発表大会」で発表を行いました。

3 その他事業報告

(1) 月別稼働率の状況

ア 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
利用契約者数	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22
開所日数	21	21	22	21	22	21	22	21	21	20	20	21	253
出勤延べ人数	413	411	424	397	377	340	396	369	400	334	370	396	4,627
1日平均	19.7	19.6	19.3	18.9	17.1	16.2	18.0	17.6	19.0	16.7	18.5	18.9	18.29
稼働率	98.3	97.9	96.4	94.5	85.7	81.0	90.0	87.9	95.2	83.5	92.5	94.3	91.4

(2) 年間行事等

ア 施設の行事

行事名	実施日	実施場所
秋風祭り	10/21	カトレア
日帰り旅行	11/2	のいち動物公園
新年会	1/10	カトレア
お花見	3/22	いの町・波川公園

イ 地域住民等との交流

波介下東地区のモーニングサロンが毎月第2水曜日に実施されており、喫茶部でサラダの提供を年間3回行った。6月に実施した防災・学習訓練には利用者様とスタッフ4名が参加し、積極的に地域交流を図りました。

ウ クラブ活動 第3土曜日・通所日

クラブ名	内容	実施回数	実施場所
美術	スピリットアート（共同作品）製作・出展、塗り絵、はり絵、画	5回	カトレア
写真	季節の写真、会報誌（スマイル）写真撮影・選択、誕生日カード写真撮影・選択	4回	カトレア 行事実施場所等
音楽	カラオケ、音楽鑑賞、作業中のリラクゼーション音楽選曲、CD再生	3回	カトレア カトレア内作業部屋
映画	DVD鑑賞、DVD選択・DVD再生	2回	カトレア

エ 係活動

係名	人数	取組みの内容
日直	1人	朝夕のつどい司会、作業予定、曜日・天気の記事
給食	9人	献立発表、献立記入、食器片付け、台拭き、調味料の整理、お茶サーバー準備・片付け
整理・美化	9人	花の水やり、トイレ掃除当番発表、掃除の担当決め・実施、食堂ホールのイス整理
飼育	3人	魚（グッピー、メダカ）の餌やり、水槽の水替え・管理

(3) 防災訓練及び避難訓練等の実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導	4/10	5/10	6/9	7/10	8/10	9/8	10/10	11/10	12/8	1/10	2/9	3/8	12回
消火			6/21					11/8					2回
通報			6/21					11/8					2回
地震	4/10	5/10	6/9	7/10	8/10	9/8	10/10	11/10	12/8	1/10	2/9	3/8	12回
図上			6/21					11/8				3/8	3回
水害対応												3/8	1回

※三密に該当する救急法と不審者対応の訓練は中止

地震訓練を毎月工賃支給日に実施することで、南海大震災に備えた避難について利用者様の意識付けができるように取り組みました。

(4) 苦情解決について

カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対応するために「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付の他、毎月1回、利用者懇談会を開催し意見交換などを行いました。苦情相談の投函はありませんでした。

(5) スタッフの配置状況（令和6年3月31日現在）

職種名	所長	サービス管理責任者	生活支援員	職業指導員	合計
配置数	1 (0.4)	1	1	5 (4.8)	8

(6) スタッフの外部研修への参加状況

研修・セミナーの名称	開催時期	主催	参加者
高知県身体障害者施設協会総会	6月	高知県身体障害者施設協会	所長
福祉QC入門講座	6月	福祉施設士会	生活支援員
施設長実学講座	7月～12月 (6回)	福祉施設士会	所長
工賃向上推進セミナー	8月	高知県	職業指導員
高知県障害者虐待防止・権利擁護 中堅職員研修	8月	高知県	生活支援員
中堅職員研修	9月(2日)	福祉研修センター	生活支援員
全国社会就労センター総合研究大会	9月(2日)	社会就労センター協議会	所長
福祉サービス苦情解決セミナー	9月	運営適正化委員会	所長
高知県身体障害者施設協会・生活部会研修会	9月	高知県身体障害者施設協会	所長 生活支援員
スーパービジョン理論に基づく部下指導研修	10月	福祉研修センター	サービス管理責任者
高知県社会就労センター合同管理者研修	12月	社会就労センター協議会	所長
福祉QC全国発表大会	12月	福祉施設士会	所長・生活支援員
中・四国社会就労センター協議会・ 施設長研修会	12月(2日)	中・四国社会就労センター協議会	所長
高齢者・障害者権利擁護研修会	12月	土佐市	生活支援員
社会就労センター協議会職員研修会	1月(2日)	社会就労センター協議会	所長 サービス管理責任者
中国・四国社会就労センター協議会 職員研修会	2月(2日)	中・四国社会就労センター協議会	所長 サービス管理責任者